

## 事業実績書

1 事業名 星空とヒトを繋ぐプロジェクト

2 実施期間 平成30年6月1日～平成31年2月28日

### 3 事業内容

#### ① 事業の目的・概要

・目的 美星の魅力を広く高め、美星ひいては備中周辺が注目され、多くの人が「自分の特別の場所」として、訪れたり関わったりするようになることを目指し、美星の「なんでもないけど特別な風景」を巡るための仕掛けを多様な人たちとの協働で創る。

・概要 美星及び近隣地域の住民が、国内外で活躍する建築家 落合守征氏との協働で、星や月や風の撮影スポットに設置する「星を見上げる装置（以下、「装置」という。）」を作成し、各イベントや、美星を訪れた人が「装置」を使って撮影した星空写真をSNS等で拡散させて、美星の魅力発信者となる。

#### ② 事業の流れ等

##### ① 事業展開会議

- 6/2 今年度の「装置」作成案、ワークショップ、出展するイベント等を決定
- 6/23 7月8日 RSK バラ園で開催されるイベントへ出展するため展示案を決定
- 7/11 緊急 豪雨災害によりほぼ全ての行事が中止されたので、今後の事業について話合う
- 8/4 8月5日の夢っこフェスティバルに出展するための準備、ワークショップの内容の決定
- 9/1 新しい「装置」具体案の決定、「宇宙ガールズミーティング」中止のため、これに替わる「装置」主役のイベントを考案。
- 10/26 材料や構造に関する打合せ、「ふたご座流星群観望会」の内容、準備打合せ
- 11/16 「ふたご座流星群観望会」打合せ、「常設」計画、準備
- 12/14 新型装置完成 「ふたご座流星群観望会」準備
- 1/23 今年度の反省、今後の展開を話合う
- 参加者：資材提供者、地域住民、アーティスト（建築家、写真家）、ir.bisei 会員

##### ② 「装置」づくりワークショップ

- 日 時：平成30年8月5日
  - 会 場：中世夢が原 美星っこ夢フェスティバルに出展
  - 講 師：落合守征氏
  - 参加者：美星及び近隣地域の子どもたち・一般（約30名）・実際の体験と講演
- イベント会場に、持ち運び可能な「装置」を設置し、実際に装置の体験をしてもらい、模型作りのワークショップを実施。同時に写真撮影も実施。

③ 流星群イベントでの PR

12月中旬に観られるふたご座流星群に合わせ井原市、天文台、観光会社が行うツアーイベントを利用して「装置」3基を展示。常設とふたご座流星群観望会へのPRを行った。

- 日 時:平成 30 年 12 月 12 日
- 会 場:美星天文台・中世夢が原
- 参加者:ツアー参加者 400 名

④ ふたご座流星群観望会(装置体験会)

12月中旬に観られるふたご座流星群に合わせ観望会を実施し、「装置」を配置、お披露目し、実際に装置を通じて流星群を楽しむ会。ロケットストーブ作成のワークショップもおこない、夜はほのかな灯りと優しいBGMで演出。星空と装置、天文台長による星や流星群に関する講演、落合氏による「装置」の講演、美星の食材を使った豚汁を提供した。同時にフォトコンを開催し、入賞者には地元の特産品をプレゼントした。

- 日 時:平成 30 年 12 月 15 日 18 時～21 時
- 会 場:星空感キャンプ場
- 参加者:公募 37 名、アーティスト、地域おこし協力隊、ir.bisei 会員
- 参加費:1000 円

⑤ 「装置」の常設展示

12月下旬クリスマスシーズンから2カ月間美星町内2か所に「装置」を常設展示。安全性を確保した上で設置。美星を訪れた人の目にふれる。

- 日 時:平成 30 年 12 月 20 日ごろ～約 2 カ月間
- 場 所:美星町内 2 か所

⑥ 観光ルート化へ向けた取り組み

「装置」の体験会・常設展示などにより、井原市にもPRを行い、観光ルートの通過点、写真撮影ポイントとして、美星町内での固定常設展示、また芸術品として美術館展示などを提案・交渉中

⑦ 広報の方法等

- ir.bisei のホームページをはじめとしたSNS・インターネットを活用
- 専門 web サイト作成
- 広報用チラシの作成
- 県民局がもつラジオ枠等を活用した広報

### ③ 成果・効果

○「装置」づくりワークショップ・夢フェスティバルでは落合氏と子供たちが直接対話をしながらのワークショップで、新しい着想を得ると共に、子供たちと保護者にも楽しく「装置」の体験をしてもらった。参加保護者からは新しい発想の地域PRの取り組みとして認知してもらえた。

○「ふたご座流星群観望会」では、ラジオでもPRをさせていただき、定員をオーバーする予約があり、県内外から家族連れや女子大生グループなど幅広い層から参加してもらえた。フォトコン参加者が自身のInstagramに投稿、最多では262件のいいね、総数では1000件以上のいいね・コメントを獲得し、まさに参加者が発信者となり美星の魅力を広く伝えられた。地元「井原放送」、「山陽新聞」でも取り上げられ、参加者や地元住民からこのイベント自体が非常に良かったとの声を多数もらっており、定期開催を検討中。※山陽新聞では井笠地区年間観光記事に掲載予定。

○常設展示では、国道313号線脇にある家にも展示させてもらったところ、通行人にあれは何？と聞かれ写真を撮られる事が多数あったと報告された。

○「SEI-AN 星庵」と名付け建築関係の賞に応募した結果、世界各国で数々の賞を受賞。オーストラリアの世界的旅行ガイドブックであるロンリー・プラネットでも紹介され、海外からの問い合わせも数回あった。

A' Design Award 2018 Winner (イタリア)

Architecture Master Prize 2018 Winner / 建築部門 (アメリカ)

Architecture Master Prize 2018 Winner / ランドスケープ部門 (アメリカ)

Best of Year Award 2018 Honorees / Exhibition & Installation 部門 (INTERIOR DESIGN 誌 / アメリカ)

日本サインデザイン協会 SDA 賞 銅賞/中国地区賞

Lonely Planet (オーストラリア)

日本では Space Design Concierge (日本) に日本商環境デザイン協会(JCD)の評価と共に掲載。

<https://space-design.jp/constellation-of-stargazing-tea-house/>

月刊「商店建築」2018年12月号に FOCUS 記事で掲載

<https://www.shotenkenchiku.com/products/detailp.php?itemid=2771>

○7月の豪雨災害により大幅な計画変更を余儀なくされたが、やり通した結果、「装置」をもとに新たなイベントや写真撮影スポットなどを生み出す事ができ、地元メディア、ネット等への露出の機会も増え、他団体・他地域との繋がりも作りやすくなった。実績ができてきた事により、今後更に美星の魅力を高め、伝えていくための方向性が定まってきた。

### ④ 今後の課題・展開等

- ・「特別な風景×イベント」がある事で訪れる人が増え、同時に地域の人、施設、食材などの魅力も伝える事ができる
- ・常設するための「装置」の構想(固定式)
- ・「装置」がある事でできる「そこにしかない特別な風景」をしっかり作っていく
- ・好評を得、Instagram等を使った効果的な「魅力拡散」ができた「星の観望会」を流星群に限らず定期開催化
- ・今年度作成した新たな「装置」を使ったイベントや仕掛けもアイデアを出しあい、生みだしていく
- ・以上の点を一連の流れと考え、その仕組をより具体的に構築し、実践していく

## ⑤ 県民局と協働した効果及び課題

### 効果

・「県との協働事業である」という効果は非常に大きく、利己的ではないという印象は、イベント等を利用する人・参加する人にとっては重要なポイントであり、また主催者も地域のためという誇りを持って活動できると感じた。

・メディア(新聞各社、ラジオ、TV など)、そして行政機関へのアプローチが非常にスムーズにでき、PR 効果と実績を同時に得る事ができた。

### 課題

・補助金の種類や性質、概念をよく理解するために、団体で取り組む場合は団体主要メンバーが、できるだけ多く、密に担当課と話合う機会を持つ必要があると感じた。

		
<p>装置作りワークショップ</p>		<p>双子座流星群観望会</p>
		
<p>双子座流星群観望会</p>		<p>常設展示</p>